

Citation: Mandall NA, Hickman J, Macfarlane TTV, Mattick RGR, Millett DT, Worthington HV. Adhesives for fixed orthodontic brackets. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2003, Issue 2. Art. No.: CD002282. DOI: 10.1002/14651858.CD002282

CRG名: Oral Health

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 15 January 2003

Clib issue No.; N/U: 2008 issue 1; -

背景: 歯への矯正用ブラケットの接着は、固定式装置による効果的かつ能率的な処置を可能にするために重要である。問題点の1つとして、治療中におけるブラケットの脱落がある。それによって、術者のチェアタイムや治療期間が増加する。治療期間が延長すると、不可逆的なエナメル質脱灰などによって、固定式装置による矯正治療が、口腔の健康リスクを増加しかねない。

目的: 異なった矯正用接着剤の効果を評価すること。

検索戦略: 電子データベース:Cochrane Oral Health Group's Trials Register、the Cochrane Central Register of Controlled Trials(CENTRAL)、MEDLINEおよびEMBASE。

最終検索は2002年8月に行われた(CENTRAL)(the Cochrane Library Issue2, 2002)。

選択基準: 以下の基準を満たす研究が選択された:2つの異なる接着剤使用群を比較したランダム化比較試験(RCTs)と比較臨床試験(CCTs)。対象者は、固定性の矯正装置を装着した患者であった。介入は、大臼歯を除くすべての歯への、ステンレス製ブラケットの接着であった。主要アウトカムは、ブラケットの脱離や接着の失敗であった。

データ収集と分析: データは、二次アウトカムとして脱灰があれば記録された。方法、対象者、介入物、計測結果、結果に関する情報は、レビューアのペアによって、二重に抽出された(Nicky Mandall(NM)and Rye Mattick(CRM); Declan Millett(DTM)and Joy Hickman(JH2))。データがメタアナリシスが可能な形式で示されていないため、このレビューの結果はナラティブな形式のみによって示された。

主な結果: 3つの研究が、基準を満たしていた。化学硬化型コンポジットレジンが、光硬化型コンポジットレジン(1つの研究)、従来型ガラスイオノマーセメント(1つの研究)およびpolyacid-modified resin composite(コンポマー)(1つの研究)と比較された。研究報告の質は概して低かった。

レビューアの結論: このレビューからいずれかの結論を導き出すことは困難である。とはいえ、将来的な矯正用接着剤研究を向上させる方法の示唆にはなりうる。

(翻訳 臼見莉沙・監訳 毛利 環; JCOHR)

翻訳公開日: 08年4月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。